2026年10月6日

関係各位

薬局だより

薬剤部　医薬品情報管理

定例薬事委員会において新規採用薬品等を下記のように決定いたしました。

1) 新規採用薬品

・全科新規採用薬品：下記の通り

依頼科	薬品名	成分	メーカー	用法用量	適応症
糖尿病・内分泌内科	マンジャロ皮下注2.5mgアテオス	(1ｷｯﾄ中) チルゼパチド 2.5mg	日本イーライリリー	通常、成人には、チルゼパチドとして週1回5mgを維持用量とし、皮下注射する。ただし、週1回2.5mgから開始し、4週間投与した後、週1回5mgに増量する。 なお、患者の状態に応じて適宜増減するが、週1回5mgで効果不十分な場合は、4週間以上の間隔で2.5mgずつ増量できる。ただし、最大用量は週1回15mgまでとする。	2型糖尿病

・診療科限定新規採用薬品：下記の通り

依頼科	薬品名	成分	メーカー	用法用量	適応症
放射線治療科	ルタテラ静注	(1瓶中) ルテチウムオキソドトレオチド(177Lu)7.4GBq(検定日時)	ノバルティスファーマ	通常、成人にはルテチウムオキソドトレオチド(177Lu)として1回7.4GBqを30分かけて8週間間隔で最大4回まで点滴静注する。なお、患者の状態により適宜減量する。	ソマトスタチン受容体陽性の神経内分泌腫瘍
放射線治療科	ライザケア輸液	(1袋1000mL中) L-リシン塩酸塩25g L-アルギニン塩酸塩25g	ノバルティスファーマ	通常、成人にはルテチウムオキソドトレオチド(177Lu)投与開始30分前より1回1000mLを4時間かけて点滴静注する。	ルテチウムオキソドトレオチド(177Lu)による腎被曝の低減
放射線治療科	プルヴィクト静注	(1瓶中) ルテチウムビピボチドテトラキセタン(177Lu) 7.4GBq(検定日時)	ノバルティスファーマ	通常、成人にはルテチウムビピボチドテトラキセタン(177Lu)として1回7.4GBqを6週間間隔で最大6回静脈内投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。	PSMA陽性の遠隔転移を有する去勢抵抗性前立腺癌
血液腫瘍内科	ブーレンレップ点滴静注用70mg ブーレンレップ点滴静注用100mg	70mg：(1バイアル中) ベランタマブ　マホドチン(遺伝子組換え) 70mg/1.4mL 100mg：(1バイアル中)ベランタマブ　マホドチン(遺伝子組換え) 100mg/2mL	グラクソ・スミスクライン	〈ボルテゾミブ及びデキサメタゾン併用投与〉 通常、成人にはベランタマブ　マホドチン(遺伝子組換え)として、2.5mg/kgを30分以上かけて3週間間隔で点滴静注する。なお、患者の状態により適宜減量する。 〈ポマリドミド及びデキサメタゾン併用投与〉 通常、成人にはベランタマブ　マホドチン(遺伝子組換え)として、初回は2.5mg/kg、2回目は1.9mg/kgを30分以上かけて4週間間隔で点滴静注する。なお、患者の状態により適宜減量する。	再発又は難治性の多発性骨髄腫

依頼科	薬品名	成分	メーカー	用法用量	適応症
小児科 新生児集中治療部	エヌフロンシア筋注シリンジ105mg	(1シリンジ中) クレスロビマブ(遺伝子組換え) 105mg/0.7mL	MSD	生後初回のRSウイルス感染流行期に、通常、クレスロビマブ(遺伝子組換え)として105mgを1回、筋肉内注射する。	1.生後初回のRSウイルス(Respiratory Syncytial Virus)感染流行期の重篤なRSウイルス感染症のリスクを有する新生児及び乳児における、RSウイルス感染による下気道疾患の発症抑制 2.生後初回のRSウイルス感染流行期の1.以外のすべての新生児及び乳児におけるRSウイルス感染による下気道疾患の予防
小児科	キャップバックス筋注シリンジ	(1シリンジ中) 肺炎球菌莢膜ポリサッカライド-CRM197結合体 0.5mL	MSD	1回0.5mLを筋肉内に注射する。	高齢者又は2歳以上の肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる者における肺炎球菌による感染症の予防

2) 診療科限定追加薬品:下記の通り

依頼科	薬品名	成分	メーカー	用法用量	適応症
小児科	リハビックス-K2号輸液	(1袋500mL中) グリセロリン酸カリウム液(50%) 3.724g (グリセロリン酸カリウムとして1.862g)　グリセロリン酸カルシウム0.526g L-乳酸カルシウム0.386g 酢酸マグネシウム0.268g 塩化亜鉛1.37mg ブドウ糖105g	陽進堂	経中心静脈輸液療法の維持液として用いる。500mLに10～12%アミノ酸注射液100～200mLを加えてよく混合し、小児の維持液とする。通常、次に示した量の維持液を小児に24時間かけて中心静脈内に持続点滴注入する。 1歳未満:80～150mL/kg/日 1～5歳:80～130mL/kg/日 6～10歳:60～100mL/kg/日 11～15歳:35～60mL/kg/日 なお、症状、年齢、体重に応じて適宜増減する。	経口、経腸管栄養補給が不能又は不十分で、経中心静脈栄養に頼らざるを得ない場合の水分、電解質、カロリー補給

3) 患者限定新規採用薬品:下記の通り

依頼科	薬品名	成分	メーカー	用法用量	適応症
血液腫瘍内科	ティブソボ錠250mg	(1錠中) イボシデニブ 250mg	日本セルヴィエ	＜IDH1遺伝子変異陽性の急性骨髄性白血病＞ アザシチジンとの併用において、通常、成人にはイボシデニブとして1日1回500mgを経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。 ＜がん化学療法後に増悪したIDH1遺伝子変異陽性の治癒切除不能な胆道癌＞ 通常、成人にはイボシデニブとして1日1回500mgを経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。	○IDH1遺伝子変異陽性の急性骨髄性白血病 ○がん化学療法後に増悪したIDH1遺伝子変異陽性の治癒切除不能な胆道癌
脊椎脊髄外科	ヘルニコア椎間板注用1.25単位	(1バイアル中) コンドリアーゼ 1.25単位	科研製薬	通常、成人にはコンドリアーゼとして1.25単位を症状の原因である高位の椎間板内に単回投与する。	保存療法で十分な改善が得られない後縦靭帯下脱出型の腰椎椎間板ヘルニア

4) 診療科限定再審議薬品(本採用結果)

・エムラクリーム　5g:患者限定へ

5) 販売/供給中止・回収・限定出荷等に伴う変更（在庫なくなり次第変更予定）

① 販売中止に伴う変更

（変更前薬品名）		（変更後薬品名）
乙ルビナフィン錠125mg「タカタ」	→	テルビナフィン錠125mg「NIG」
オランザピンOD錠10mg「DSEP」	→	オランザピンOD錠10mg「ニプロ」
エパルレスタット錠50mg「タカタ」	→	エパルレスタット錠50mg「NIG」

② 供給困難に伴う変更

（変更前薬品名）		（変更後薬品名）
マキサカルシトール静注透析用シリンジ2.5μg「フソー」	→	マキサカルシトール静注透析用2.5μg「トーワ」
ケフラール細粒小児用100mg	→	ラリキシンドライシロップ小児用20%
グロベニン-I10%静注5g/50mL、10g/100mL、20g/200mL	→	献血グロベニン-I10%静注2.5g/25mL、5g/50mL、10g/100mL

6) 削除薬品(在庫なくなり次第削除予定)

ベリプラストP コンビセット 組織接着用1mL2キット1組、3mL2キット1組	:	ボルヒールに採用を揃えるため削除
【科】レベミル注 フレックスペン	:	2年間で2本廃棄回避処方のみだったため削除
【科・患者】ジクロフェナクNa坐剤12.5mg「日新」	:	期限切れのため削除
【患者】ゾピクロン錠10mg「トーワ」	:	販売中止のため削除
【患者】ベザトールSR錠200mg	:	販売中止のため削除
ペリンドプリルエルブミン錠4mg「トーワ」	:	期限切れのため削除

7) 採用区分/剤型変更等(在庫なくなり次第変更予定)

① 剤型変更/剤型追加/規格変更/規格追加

(1)規格追加

・ボルヒール組織接着用1mL4瓶1組、3mL4瓶1組

・リスティーゴ皮下注420mg

・イオプロミド300注シリンジ80mL「BYL」

・ヘムライブラ皮下注12mg

8) 後発品への変更(在庫なくなり次第変更予定)

①先発→後発への変更

・ジーラスタ皮下注3.6mg→ペグフィルグラスチムBS皮下注3.6mg「モチダ」

・フィコンパ錠2mg→ペランパネル錠2mg「アメル」

・レブラミドカプセル5mg→レナリドミドカプセル5mg「FNK」